

コロナ禍でも3年ぶりに開催

東京モーターサイクルショー

来場者前回は17%減も盛況

国 内最大級の自動二輪車関連展示会「第49回東京モーターサイクルショー」=写真=が3月25日～27日の3日間、東京・江東区有明の東京ビッグサイトで開かれました。EVバイクをはじめとする最新車両やパーツ、アクセサリなど関連商品が一堂に展示されたほか、国内トップライダーや女性ライダーによるトークショーなどのイベントが行われ、来場者の関心を集めていました。会期中の来場者数は12万3,439人と前回は17%減となりましたが、会場は熱気にあふれ盛況でした。

同展示会は1971年に初開催され、47回、48回は新型コロナウイルスのため中止となり、今回が49回目として3年ぶりの開催となりました。会場内はウィズコロナ時代に対応した新しいイベント方式が採用され、会場入り口での検温や消毒などが徹底されました。

このような状況下で、前回と同数の153者が出展し、総小間数は948.7小間と前回より22小間多くなりました。奇抜な展示内容で来場者の目を引くブースが数多くあり、会場内のイベントホールではトラ



イアル、モトクロス、ロードレースの選手らによるトークショーで来場者を楽しませていました。また、展示場の屋上では警視庁女性白バイ隊によるドリル走行、レディースチャンピオンのトライアルデモンストレーションなど、見応えのある実技が行われました。

今回のキャッチフレーズは「はじめようバイク」とし、女性や若年層へのアピールを強め、イベントを通して二輪車愛好者のすそ野拡大を図る取り組みに力が入られました。とくに子ども連れでも楽しめるようMFJレースマシンのまたがり体験なども行われ、順番待ちの長い列ができていました。

主催者の東京モーターサイクルショー協会の赤坂正人会長は、初日に行われた開会式で「バイクの販売台数、免許取得者が共に増えています。コロナ禍による新しい生活様式の中にバイクが浸透しており、この流れを加速させ二輪車市場の活性化を図りたい」と挨拶しました。〔東京都自動車会議所〕

訃

トヨタ自動車副社長
アイシン精機（現アイシン）元会長
（当会議所会員元代表者）

和田 明広氏

アイシン精機（現アイシン）で会長を務められた和田明広（わだ・あきひろ）氏が3月13日、逝去されました。88歳でした。

和田氏はトヨタ自動車出身で、エンジニアとしてセリカなどの開発に携わられたほか、プリウスの開発プロジェクトを指揮されました。1992年同社専務、1994年副社長を経て、1999年アイシン精機会長に就任され、2005年まで務められました。

報

本田技研工業元社長
（当会議所元常任理事・元評議員）

吉野 浩行氏

本田技研工業の元社長で、当会議所の常任理事・評議員を務められた吉野浩行（よしの・ひろゆき）氏が4月1日、逝去されました。82歳でした。

吉野氏は技術畑出身で、米国の環境規制「マスキー法」をクリアしたエンジン「CVCC」の開発に携わられたほか、人型ロボット「アシモ」や小型飛行機の開発にも注力されました。1990年専務を経て、1998年社長に就任され、在任中、小型車「フィット」が同社初の販売台数首位となるなど、2003年に退任されるまで経営に大きく貢献をされました。

また、2004年6月～2010年6月当会議所常任理事、2010年6月～2011年3月同評議員を務められました。